

令和8年度「あかね会定期総会」の開催

令和8年5月17日(日)11時から、八王子エルシイにおいて、令和8年度の定期総会が開催されました。新入会員3名を含む36名が出席し、そのうち5名は第1部・第2部のみの出席でした。



八王子エルシイ

第1部の定期総会は、西澤篤司庶務(平成2年卒)の進行により進められました。浜中会長が所要で遅参のため、齋藤博志副会長の挨拶で始まりました。齋藤副会長は、挨拶の中で「学校長・副校長、PTA 会長のご臨席に感謝申し上げます。本会の目的は会員の親睦のほか、母校に支援が大事となっている。本日は第2部、第3部をお楽しみいただき、学校時代を思い出してほしい。」と述べました。

次に、名誉会長の松田晴美校長から、「着任して1か月経つが、多摩地域・八王子は勤めてみたかった地であり願いが叶った。難関校といわれる本校を、多摩随一の学校となるよう目指したい。同窓会の支援は学校の支え、安定化につながると信じてやみません」と着任の決意等が述べられました。



松田校長先生

総会の議長には、山根博史常任委員(昭和59年卒)が選ばれ議事が進行され、最初に令和7年度の事業報告、決算報告・監査報告が議題とされました。決算について質問ののち、これらは異議なく了承されました。引き続き、令和8年度の事業計画案、予算案が説明され、これらも異議がなく承認・可決されました。



山根議長

役員改選案が提案され、新たに庶務に及川賢一氏(平成11年卒)、会計監査に石井健一氏(昭和61年卒)が承認されました。お二人の就任挨拶後、第1部の総会は終了しました。

第2部は、昭和57年卒業の高木秀樹さんにより、「古典芸能の招待」の演題で講演会が行われました。齋藤万理子常任委員(昭和44年卒)の紹介で始まり、スライドを上映しながら講演会が進みました。

講師は、歌舞伎・文楽の同時解説放送「イヤホンガイ

ド」の解説者として、NHK 教育テレビ等で活躍されています。この仕事には、平成2(1990)年に就かれ36年を迎え、歌舞伎座ではお客さん2千人中千人がイヤホンガイド利用しているとのことでした。

出身が八王子で、散田小、梶田中、南多摩高校と進み昭和57年に卒業され、その後法政大学法学部に進まれました。昭和60(1985)年に「12代市川團十郎襲名披露」を歌舞伎座の3階席で見て、歌舞伎座に日参するようになったとのことです。「もう法律などやっていられない」と歌舞伎・文楽に凝り、ゼミを除き学校から離れたと言います。担当教授から、「彼は法学から邦楽になった」と言われたそうです。

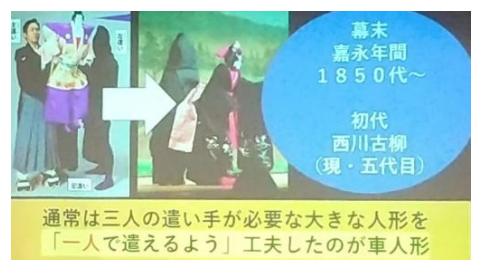


高木秀樹さん

イヤホンガイドの初解説は、平成2(1990)年に行ったそうですが内容はひどかったそうです。「今度こそ上手くやる」との決意で、辞めるに辞められない状況だったと回想されます。その原因は知識不足にあり、芝居以上に古典の教養がなかったと反省されました。より多くのものを見る、本を読む、人の話を聞くことに精進し、上達は日頃の積み重ねであると悟ります。

転機は13年目の平成15(2003)年に、NHK 教育テレビ「文楽鑑賞入門」の講師を務めたことだそうです。「あらすじで読む名作文楽50」を出版されました。

役者の3つの条件は、声の大きさ、男っぷり、演技力であるとして、役者は音量がなければ使い物にならなかった。歌舞伎で「見得」ができた原因は、「不行儀な客への対抗手段」として、「無音」・黙ってし



まったことが、「見得」の起こりであると説きました。

また、八王子人形にも触れ、幕末の嘉永年間(1850年代)に、通常は3人の遣い手で文楽人形を操るのを、一人で遣えるように工夫したのが「車人形」とあり、初代の西川古柳を称える話をされました。最後に八王子踊りの生解説をしたことにも触れ、講演は予定を超え50分となりました。聴衆の名残り惜しさがあるなか、講演会は終了となりました。

第3部の懇親会は、松葉優樹庶務(平成24年卒)の進行により、第2部から参加した浜中賢司会長の挨拶で始まりました。「第1部に遅参しましたが、副会長の代行で進行され、皆様には同窓会運営にご協力をお願いしたい。4月に松田校長が就任され、PTA川本会長も活動を活性化されている。学校、PTAとも連携して学校の支援に力を注いでまいりたい。大事なことは、次に世代にバトンを渡しつつ、学校を継続的に支援することと考えます」と話されました。

松田校長先生からは、「総会の円滑な進行に立ち会い、高木先生のご講演を伺うと、南多摩の人材が豊富なことに感慨を覚えます。今後ともよろしく申し上げます」とのご挨拶をいただきました。

続いて川本洋輔PTA会長から「先日の体育祭では、片付けの時間に心配した雨降りとなり、お天道様が見守ってくれた。薙刀部は強化選手が2人選ばれ、顧問の上田先生も都の代表選手となるなど活躍が目覚ましい。あかね会から、本年度に部活動掲示板の補助していただくことに感謝したい」とお話がありました。

開始から2時間が過ぎ、齋藤博志副会長から乾杯の発声があり、懇親会が始まりました。

美味しい料理に舌鼓を打ちながら、会員の皆さんの



浜中あかね会会長



川本PTA会長

歓談が一区切りした頃、新入会員の紹介が始まり、3人から一言ずつ挨拶をいただきました。

3人とも在校時には和太鼓部の所属し、全国大会に参加したこと、前期・後期ともに生徒会長をしていたことや、和太鼓部の部長を務めていたことなどがそれぞれ披露され、会場のかっさいを浴びました。



新入会員

その後、山下・渡辺両副校長をはじめ、初めて参加された会員を中心にご挨拶をいただきました。

宴も終盤に差しかかったところで、常任委員でもあるシンガーソングライターSIOの小塩晶人さん(昭和62年卒)にギター演奏で歌っていただきました。

日野出身のSIOは、日野の小学校で先生から子どもに歌を聞かせてほしいと依頼され、学校に暫く通ったことなどが披露されました。また、6月6日に日野煉瓦ホールで、恒例の「僕たちの町コンサート」を開催されることも紹介されました。そののち、中島みゆき作曲の「なぜめぐり逢うのかを私たちは なにも知らない…」と、「糸」が情感をもって歌い上げられました。続いて「風に乗って」を会員の輪唱を伴って歌い、3曲目に「大丈夫、大丈夫、大丈夫」で締めくくられました。



SIOさんの演奏

最後に、11期生の橋口幹太さんの指揮により、母校校歌「湧水は街を巡り…」を高らかに合唱しました。

結びに、相談役の野口富巳子さんから閉会の言葉が述べられ、総会、講演会、懇親会の3部建ての定期総会は散会となりました。

